

コイズミ無線 "PINE CUBE" 組み立て手順書

＜必要部材・工具＞

- ・スピーカーユニット
- ・木工用ボンド（板材の接着に必須です）
- ・プラスドライバー（ターミナルやスピーカーユニットの取り付け時に必須です）
- ・キリもしくは穴あけドリル（ネジの下穴加工にすると便利です）
- ・ワイヤーストリッパー（配線の皮膜を剥くのにあると便利ですがはさみやニッパー等でも代用できます）
- ・ハンダ、はんだごて or 圧着工具（内部配線と端子をかしめるのにあると便利です）
- ・やすり（仕上げ時等にすると便利です）
- ・おもり、またはクランプ、ハタガネ（接着時にあると便利です）
- ・マスキングテープ（接着時に余分なボンドから木材を保護するためなどにすると便利です）

＜手順①＞ 板材と同梱品の確認

- ・板材 × 12枚（前面板2枚、背面板2枚、上下板4枚、側板4枚）

- ・スピーカーターミナル × 2個

板材



- ・内部配線材 × 2本

- ・ファストン端子

Mサイズ × 8個

- ・吸音材 × 2枚

- ・端子取付用ネジ × 4個

同梱品



＜手順②＞ 仮組

まずはボンドを使わずに仮組みをします。

板の向きや接着の仕方の確認をはじめ、

完成した状態や作業過程をイメージするためにも行います。

また不具合等ないかの確認も一緒に行ってください。



＜手順③＞ 下面板と側面の接着

下板の挿し込み部にボンドを少なめの量で流し込みます。

側板は上から挿し込むような形ではめ込み、板のいちが合うように調整します。

はみ出したボンドは固く絞ったタオルでしっかり拭き取ります。

また指先で段差なく接着できているか確認をしながらズレを補正します。

★ボンドを入れすぎると接着剤の厚みで隙間が出来てしまいます。

通常の板材よりも少なめがおすすめです。

（目安としては、接合中央部に木工用ボンドを

1cm くらいチューブからしぶり出す程度）

★挿し込み向きをチェック→



＜手順④＞ 上板の接着

☆挿し込み向きをチェック⇒

先ほどの作業した板材に上から挿し込むように上板を接着していきます。

まずはボンドを側板の接合面に少なめに流し込みます。

その後、上から挿し込むように上板を接着していきます。



はみ出したボンドは固く絞ったタオルでしっかり拭き取ります。

また指先で段差なく接着できているか確認をしながらズレを補正します。

そして位置を決めたら上からグッと圧力をかけてしっかり接合します。

乾くまではおもしを載せたり、クランプ、播金などでしっかり固定しておきましょう。



＜手順⑤＞ 内部配線の処理

ボンドを乾かしている間に内部配線の処理をします。

ターミナルは +, - どちらも M サイズでご使用になれます。

ユニット側は Alpair5G であればどちらも +, - M サイズ、

他のユニットをお使いの場合は商品によって異なりますので

サイズを確認して合う物を取り付けましょう。



★配線材の皮膜の剥き方

ワイヤーストリッパーがあると便利ですが、無い場合はハサミやカッターで

芯材を傷つけないように軽く食い込む程度に切れ込みをいれ、刃を動かさずに

電線を一周させ切れ込みをいれて、指でちぎるように被膜を引っ張ると綺麗に剥けます。

★ファストン端子の取り付け方

線材の先端を振り写真のようにファストン端子に入れます。



その後、皮膜に食い込むように圧着工具やなければラジオペンチなどで

外側をかしめます。内側も同じようにかしめますが、

圧着工具が無い場合はハンダ付けするとよりしっかり接着できます。

＜手順⑥＞ 後面の接着

ボンドが乾いているかを確認し、手順④で組んだ板に後面の板を接着していきます。

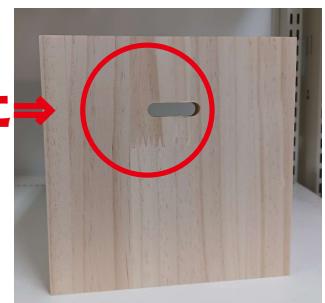
まずは手順④で接着した板がズレて接着されていないか確認してください。

前面と後面の接着する面がズレていた場合はやすりなどで削り水平にすると綺麗に接着できます。

問題ないか確認後、手順④の時と同じようにボンドをしっかり塗り後面を接着していきます。

手順④と同じように指先で段差なく接着できているか確認をしながらズレを補正し、

ハタガネやクランプ、おもりなどでズレないよう圧着していきます。



☆ターミナル取り付け部が上になるように⇒

＜手順⑦＞ 吸音材を入れる

入れ方はお好みです！！

ボンドが乾いているかを確認し、手順⑥で組んだ板材に吸音材を入れます。付属の吸音材をお使いになる場合は、必要に応じてハサミで適当にカットし、お好みで入れていきます。手が入る大きさの開口径なら後から出し入れできますのでお好みに応じて調整してみてください。また材質や入れ方で音が変わってきますのでお好みに応じて色々とお試しください。



(コイズミ無線では色々な種類の吸音材がございますのでぜひお好みの商品を探してみてください)

＜手順⑧＞ 前面の接着

☆木目が上向きになるように→

ボンドをしつかり塗り前面を接着していきます。同じように指先で段差なく接着できているか確認をしながらズレを補正し、ハタガネやクランプ、おもりなどでズレないよう圧着していきます。



＜手順⑨＞ ターミナルの取りつけ

ボンドが乾いているかを確認し、ターミナルを取り付けていきます。まずはターミナルに極性を確認しながら内部配線材を取り付けます。ユニット側に取り付ける方を外側から内側にターミナル穴に通します。その後、ターミナルを付属のネジを使って取り付けていきます。取り付ける際に、予めキリなどで下穴の処理をしてから取り付けましょう。

★仕上げについて

そのままでもご使用になれます、多少のズレや段差ができることがありますので、仕上げをされることを推奨しております。板材の多少のズレはサンディング（やすりがけ）でなめらかにしていきましょう。気になる隙間などがある場合は、木工パテなどで埋めてください。

★塗装などをされる場合

仕上げ材などを塗られる場合は、家具や木工に使用されるワトコオイルなどがおすすめです。



☆この工程を2回行うことで、左右（LR）1ペアが完成します。

＜手順⑩＞ ユニットの取りつけ

最後にユニットを取り付けていきます。

下穴処理などをし極性を間違えないよう、また振動板を傷つけないように取り付けて完成です！



ぜひたくさんお楽しみください！！
ありがとうございました。